（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	田中　洋	所　属	大学院教育学研究科教職実践講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.45	授業については、受講学生の数や基本的知識の有無などに応じて柔軟な対応を心がけ、学生の興味や関心を高めるように努める。 教職大学院の授業では、前期・後期に各2週間、授業公開及び授業参観を実施する。 学生支援については、特に教職大学院の指導担当学生を中心に、学生の研究テーマの追究への助言に努める。	0.45	受講学生の多寡や関心に応じ、授業内容や方法について調整した。 教職大学院の授業については、FD活動として、授業公開及び授業参観を実施した。 指導担当学生に対しては、最終報告書の完成に向けた助言や、課題研究のテーマの具体化に資するような助言を行った。
研究	0.35	紀要等へ論文を発表するとともに、少なくとも一回は学会誌への投稿を行う。	0.30	3月発行予定の教職センター紀要に論文を執筆したが、学会誌への投稿には至らなかった。
社会貢献	0.05	教員免許状更新講習等の講師として、受講者のニーズに応じた講習となるように、その内容や方法を工夫する。 地方自治体の審議会委員を誠実に務める。	0.05	教員免許状更新講習や県立学校研修等において、講師を務めた。
管理運営	0.15	FD委員会の一員として、FD活動を着実に実施する。 教員選考調書作成委員を誠実に務める。	0.20	FD委員会の一員として、通常のFD活動を実施した。 教員採用に関わる教員選考調書作成委員会の委員長として選考作業を行った。 法人評価の現況調査表について、教職大学院部分の作成を行っている。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	道田泰司	所　属	教育学研究科　高度教職実践専攻（教職大学院）	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	・授業を行う（ゼミも含め，前期週6コマ，後期週6コマ） ・丁寧な授業準備 ・受講生からの積極的な意見の聴取，それに基づく授業改善 ・院生とゼミ所属学部学生（4名）を中心とした教育実習の視察・指導助言，進路相談・指導など ・学生への進路相談	0.40	前後期とも，予定通りに授業を行った。後期はさらに1授業の補助を行った。 毎回の授業に際しては，前年度の反省を活かし，改善をしつつ行った。 ほとんどの授業で，webClassを用いて学生に振り返りを書かせることで，学生からの意見聴取を行った。 学部ゼミ所属学生（4名）ならびに担当院生（6名）を中心に実習視察，助言等を行った。特に主担当院生には丁寧な研究指導を行った。また年次指導を担当している1年次院生の実習は，18名全員のものを参観し，助言等を行った
研究	0.30	・データ収集，分析，学会発表、投稿（科研費プロジェクト） ・研究関連の情報収集 ・論文執筆 ・書籍などへの原稿執筆、編集など	0.30	科研費プロジェクトのデータ収集・分析／別の科研費プロジェクトの計画立案補助／編著書1冊編集中／紀要論文1本刊行，2本印刷中（うち2本は院生との共同執筆）／全国学会で発表3件，シンポジウム1件
社会貢献	0.00	・教員免許更新講習の講師 ・その他研修会における講師 ・小中学校などにおける校内研講師 ・沖縄県私立学校審議会委員	0.20	免許更新講習講師（必修領域：2日間）／県内小学校3校，小中学校4校，で校内研講師／沖縄県総合教育センター—にて中堅者研修講師／九州附属学校連盟国語部会研修会講師／沖縄県私立小学校連盟研修会講師／附属中3年生全員を対象に学習法講座（2回）
管理運営	0.20	・教職大学院におけるカリキュラム委員長として ・教職大学院における入試業務遂行 ・全学大学院教育プログラム委員会委員として ・教職大学院4期生年次指導教員として	0.10	入試業務に従事した／教職大学院の会議に参加した／カリキュラム委員として，時間割，便覧作成，課程認定届けなどを行った／全学大学院教育プログラム委員として，委員会に参加した／1年次指導教員として授業の計画立案や院生対応を行った
	0.00		0.00	
計	0.80		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	杉尾幸司	所　属	教育学研究科　高度教職実践専攻（教職大学院）	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	教職大学院における担当授業等について、学生による授業評価等を定期的に行い、学生の視点を反映した授業改善を図る。また、他の教員の授業を2科目以上参観し、自身の授業改善の参考にする。課題研究等での指導に関しては、個々の学生の希望や興味・関心を尊重した細やかな対応を心がける。	0.35	教職大学院における担当授業について、学生による授業評価を実施し、授業の構成等を工夫するなど授業改善を図った。また、他の教員の授業を、年間で2科目参観し、自身の授業改善の参考とした。課題研究での指導に関しては、授業時間以外にも研究室での面談や電子メールでの情報交換を頻繁に行い、学生の希望や興味・関心を尊重した細やかな対応を実施した。
研究	0.35	新たな研究を進めるとともに、これまでの研究内容についてまとめ、学会等での発表や研究論文等の投稿に努める。また、科学研究費補助金等の外部資金の獲得を積極的に行う。	0.35	外部資金として、「科学研究費補助金（基盤研究C：代表者）」を獲得し、研究を進めた。また、これまでの研究成果は、学会において発表するとともに、論文投稿を行い、査読誌に1報掲載され、大学院紀要に2報掲載予定である。
社会貢献	0.15	附属学校を含む小中高の学校現場等との連携活動を推進し、様々な教育的課題についての解決に向けた取り組みに協力する。また、教育委員会等の教育行政からの要請等にも積極的に対応する。	0.15	附属学校および連携協力校での授業研究会等に参加し、授業改善を含む教育現場の課題についての助言を行った。また、県教委の委嘱を受け、スーパーサイエンスハイスクールの運営指導委員として、SSH校への指導・助言・評価等を行った。
管理運営	0.15	教職大学院における委員会活動や県教委との連携推進会議等において役割を果たすとともに、全学的な委員会活動についても積極的に協力する。	0.15	教職大学院における委員会活動、県教委および連携協力校との関連会議等において役割を果たした。全学的な委員会活動については、琉球大学 博物館（風樹館）運営委員会委員として琉球大学博物館の運営に協力した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	吉田　安規良	所　属	大学院教育学研究科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.15	管理運営に係る時間が膨大で、正直時間不足であるが、担当科目はほぼ全て「教員養成」「教職の高度化」と密接に関連しているため、教職志望の学部学生や教職大学院の学卒院生が、将来黒板を背にして教壇に立ったときに困らない、教職大学院の現職院生が「給料泥棒」と揶揄されないような教育活動を一教員として行う。	0.10	担当すべき授業は全て行った。昨年度の履修者で単位を認定したと思われる者から、今年度の授業内容について「ハラスメント」の申出（相談）があったことがハラスメント相談支援センターから伝達された。一般に公開されている情報を素に昨年度の授業の反省を題材にしながら授業をしたが、学生が不快に感じたのは事実であろうことから授業内容や授業における言動には注意しないとならない。しかし、一方で、実質が伴っていない者に単位認定をしてしまったことが明らかになったので、当該科目の成績認定は例年になく厳重に行い、保留者には必要な補完指導と猶予を与えて単位認定作業をした。
研究	0.25	科研費基盤研究（C)に採択されたので、計画した内容の研究を進める。	0.25	科研費の助成を受けた研究はおおむね予定通りに進んだ。学会発表3件、論文投稿1件。 附属学校を支援する形でのスクールロイヤーの研究の足がかりをつけた
社会貢献	0.15	沖縄県教育委員会免許法認定講習を担当する。 教員免許状更新講習の講師として、あるいは各種研修会・研究発表会に参加することを通して地域の現職教師教育に貢献する。	0.15	沖縄県教育委員会免許法認定講習（「教職入門」）の講師、教員免許更新講習（必修2クラス、選択1クラス）の講師を担当した。
管理運営	0.45	教職大学院の所掌業務を粛々と行う。 全学的な初等中等教育教員養成の在り方の検討に寄与する。 その他、全学的な各種委員会、WG、TFに必要とされていれば参加し、業務を分担する。 教育学部運営会議の構成員として参加し、高良学部長・研究科長の足手まといにならないように活動する。	0.50	教職大学院の所掌業務をつつがなく実施した 全学の評価関係のプロジェクトチーム、人を対象とした非医学系の研究倫理審査委員を担った 内閣府の離島振興ICT関係の事業の受託を支援した 沖縄県教育委員会との人事交流（人員派遣）の協定書の見直し作業を学長の委任をうけて進めた。 教育学部運営会議の構成員として参加し、可能な限り高良学部長・研究科長の業務を補助した
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	丹野　清彦	所　属	教育学研究科　高度教職実践専攻（教職大学院）	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.50	（1）教職大学院の院生に対して、共通科目、選択科目を通して、経験知と学術的な理論と実践が融合し新たな知見が見出せるように指導する。 （2）大学院で行う生活指導・生徒指導の実践と課題や学校不適応の子どもなどの授業では大学院生が生活指導とは何か、と本質的に問い、自分の実践や子どもの見方を見直し構想が立てられるようにする。 （3）学部の「特別活動論」においては、子どもたちが学級の主人公となり、安心と信頼をもとに人間関係づくりや社会参画ができる仕組みをつくることが重要であることを理解し、授業の構想が立てられるようにする。 （4）学生や大学院生の個別の指導に要望があれば必要に応じて応え支援する。	0.50	（1）と（2）については大学院の講義について、4年目ということもありこれまでの講義内容を整理し充実に努めた。特に大学院の実践や生活指導に対する知見を把握し、それを逆転させるような事例を中心に講義を展開した。 （3）に関しては、大学生たちには現場の経験がないことを考慮し実際の学校の様子がイメージできるようロールプレイや討論、グループ活動を取り入れ、授業後の学生の感想や授業評価も4.5以上と好評だった。 （4）に関しては学生の要望を受け、定期的な読書会や懇談会を行い、大学院生からも喜ばれ、充実できた。
研究	0.30	（1）　生活指導の理論と実践について、沖縄の子どもたちの実態を現場に通い把握し、安心感や信頼感を育てる学級づくりの方法を探る。 （2）沖縄県内の小学校10校以上に足を運び、沖縄県の学校が抱える課題や悩みを学力向上と生活指導の両面から職員の現状報告をもとに分析し,アドバイスや改善方法を探るり、研究に努める。	0.30	（1）については連携協力校と良好な関係をつくるため、連携協力校を中心に校内研究への参加や悩み相談会を行うなど取り組みを進め、沖縄の子どもたちの実態を把握するとともに方針を立て、共同で指導にあたった。 （2）に関しては、気になる子どもに関する相談が多く寄せられ、特に前半は幼稚園を中心に行い、後半は小学校を中心に10回以上実施し、定期的に訪問し研究する学校ができた。。
社会貢献	0.10	（1）教育研究支援室の　アドバイザリースタッフTのひとりとして、積極的に地域貢献し要請のあった学校に10回以上赴いて研究を深める。 （2）沖縄県内外の研修の要請に応え、研修会等に10回以上参加し、支持的風土のある学校づくりに協力、貢献する。 （3）せんせい応援セミナーを5回以上主催し教師支援に貢献する。 （4）必要に応じて専門委員会に所属し沖縄県の市町村の要請に応える。	0.10	（1）と（2）については、学校や団体から目標の年間10回を大幅に超え、宮古島や石垣島の学校からの要請にもこたえ貢献した。 （3）については、今年も卒業した学生や大学院生の支援にあたり、沖縄市やうるま市など中頭地区と連携し年間7回、延べ350人の参加者を得るなど貢献した。 （4）については沖縄市の要請に応え、いじめ問題専門委意をしている。
管理運営	0.10	（1）教職大学院全体の円滑な運営に副専攻長として取り組む。 （2）教職大学院の実習委員として、関係諸機関と連携をとりながら、円滑な運用に努める。 （3）教職大学院の担当の役割を積極的に果たし、オープンキャンパスにも複数回参加し、大学院の良さを大学内外に効果的に広める。	0.10	（1）と（2）に関しては、教職大学院と沖縄県教育委員会の課題を照らし合わせ、沖縄県が抱える課題を整理し、定期的なワーキングを立ち上げ意思疎通を率先して図っている。 （3）に関しては副専攻長として、オープンキャンパスに3回以上出席し、担当へアドバイスをするなど円滑な運営を図るとともに、沖縄タイムスへ働きかけ大学内外に大学院の良さを発信し、広めることができた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	多和田　実	所　属	教育学研究科　高度教職実践専攻（教職大学院）	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	・教職大学院生及び学部学生に対する指導助言、支援 ・教職大学院及び学部の講義に係る授業改善・資料収集 ・教職大学院連携協力校との調整及び連携協力 ・教員採用試験に向けた学生の支援	0.33	・教職大学院生及び学部学生に対する指導助言、支援については概ね達成 ・教職大学院及び学部の講義に係る授業改善・資料収集については概ね達成 ・教職大学院連携協力校との調整及び連携協力については概ね達成 ・教員採用試験に向けた学生の支援については充分に達成（小論文・面接・模擬授業対策等）
研究	0.35	・算数・数学教育法に関する調査研究 ・教育実践学に関する調査及び研究 ・小中高を見通した継続的な算数数学教育のあり方の研究	0.25	・算数・数学教育法に関する調査研究についてはやや不十分 ・教育実践学に関する調査及び研究についてはやや不十分 ・小中高を見通した継続的な算数数学教育のあり方の研究についてはやや不十分
社会貢献	0.20	・教員免許状更新講習の講師（中高数学） ・北中城村数学フロンティア事業講師（北中城中学校・琉球大学・北中城村教育委員会の合同研究） ・JICA「課題別研修事業」に係る講師 ・沖縄県高校数学教師のための授業づくり支援「高校数学を楽しく考えようの会」副顧問 ・宜野湾市教育委員会点検・評価員	0.17	・教員免許状更新講習の講師（中高数学）については概ね達成 ・北中城村数学フロンティア事業講師（北中城中学校・琉球大学・北中城村教育委員会の合同研究）については不十分 ・JICA「課題別研修事業」に係る講師は充分に達成（2回） ・沖縄県高校数学教師のための授業づくり支援「高校数学を楽しく考えようの会」副顧問 　として4回の開催（概ね達成） ・宜野湾市教育委員会点検・評価員については概ね達成
管理運営	0.10	・教職大学院実習・準備委員 ・教育学部学生生活委員会就職推進部会教員採用試験対策WG委員 ・教職センター会議委員	0.10	・教職大学院実習・準備委員とししての任務は概ね達成 ・教育学部学生生活委員会就職推進部会教員採用試験対策WG委員としての任務は概ね達成 ・教職センター会議委員として会議に参加
	0.00		0.00	
計	1.00		0.85	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	浦崎　武	所　属	教育学研究科高度教職実践専攻教職実践講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	・大学院・学部への授業科目、修論指導（大学院8科目、学部4科目） ・地域志向教育推進事業：授業科目改善(前期・後期、2科目） ・学生メンタルケア、発達障害のある学生を対象にした大学生活への適応支援（通年） ・地域志向科目による実践教育:子どもたちの参加による「トータル支援事業」（通年） ・支援プログラムの内容の選定および実践教育　（月2回、全14回） ・現職教員、支援員および他領域の専門家との事例研究会による実践教育（月1回全10回） ・学生と発達障害のある子どもたちを対象にした野外活動、キャンプ等の体験教育（1回）	0.35	・大学院・学部への授業科目、修論指導（大学院8科目、学部4科目） ・地域志向教育推進事業：授業科目改善(前期・後期、2科目） ・学生メンタルケア、発達障害のある学生を対象にした大学生活への適応支援（通年） ・地域志向科目による実践教育:子どもたちの参加による「トータル支援事業」（通年） ・支援プログラムの内容の選定および実践教育　（月2回、全14回） ・現職教員、支援員および他領域の専門家との事例研究会による実践教育（月1回全9回） ・学生と発達障害のある子どもたちを対象にした野外活動、キャンプ等の体験教育（1回）
研究	0.15	・資金獲得の諸作業（科研費、戦略的地域連携、地域志向教育経費） ・現職教員、支援員および他領域の専門家との実践事例研究会（月1回、全10回） ・論文作成のための研究会（月１回、全１２回） ・トータル支援事業の実践研究を行い、研究成果を報告する実践支援セミナーの開催（1回） ・発達支援室での教育臨床実践（事例数80名、セッション数600） ・沖縄特別支援教育研究会との連携事業：指導助言等（1回）	0.15	・資金獲得の諸作業（科研費、戦略的地域連携、地域志向教育経費） ・現職教員、支援員および他領域の専門家との実践事例研究会（月1回、全9回） ・論文作成のための研究会（月１回、全9回） ・トータル支援事業の実践研究を行い、研究成果を報告する実践支援セミナーの開催（1回） ・発達支援室での教育臨床実践（事例数30名、セッション数200） ・沖縄特別支援教育研究会との連携事業：指導助言等（1回）
社会貢献	0.25	・県教育委員会共催事業：6圏域教育事務所との協働トータル支援教室・実践検討会（8回） ・県教育委員会共催事業：公開実践発表会＆発達支援教育実践セミナーの開催（1回） ・教員実践事例研究会の開催（月１回全10回） ・発達障がい児への「トータル支援教室」の開催（月2回全14回） ・地域教育相談、地域教育支援活動（事例数80名、セッション数(400) ・離島・へき地における学校巡回支援・巡回相談活動（月2回全20回）	0.25	・県教育委員会共催事業：6圏域教育事務所との協働トータル支援教室・実践検討会（7回） ・県教育委員会共催事業：公開実践発表会＆発達支援教育実践セミナーの開催（1回） ・教員実践事例研究会の開催（月１回全9回） ・発達障がい児への「トータル支援教室」の開催（月2回全14回） ・地域教育相談、地域教育支援活動（事例数30名、セッション数(200）離島（月２回全２０回） ・略的地域連携事業獲得のための事業（1件）
管理運営	0.25	・教職大学院教員会議（約20回） ・地域貢献部会（通年） ・教職センター併任・教員会議（役10.回） ・学生生活委員：学生メンタルヘルスカウンセリング対応委員(通年） ・戦略的地域連携事業獲得のための事業構想の諸作業（継続申請）	0.25	・教職大学院教員会議（約17回） ・地域貢献部会（通年） ・教職センター併任・教員会議（約12回） ・学生生活委員：学生メンタルヘルスカウンセリング対応委員(通年） ・戦略的地域連携事業獲得のための事業構想の諸作業（1件）
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前	白尾　裕志	所　属	教育学研究科　高度教職実践専攻（教職大学院）	職　名	教授	
領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果		
教育・学生支援	0.30	(1)教職大学院の院生に対して、共通科目、選択科目の履修、各実習、課題研究等の学修を通して、経験知と学術的な知見が融合しながら新たな知見が見出せるように指導する。 (2)大学院生に対して、多様なの観点から科目や実習の振り返りを求め、実践力の向上に結びつく指導をする。 (3) 「社会科教育研究」では、学生が①教材の開発方法、②授業の展開方法、③児童の掌握方法を理解し、授業構想が立てられるようにする。 (4)「生活科教育研究」においては、生活科が児童の生活を学校（教育）で自由に表現できる仕組みをつくることが最も重要であることを実践の分析を通して理解できるようにして、授業構想が立てられるようにする。 (5) 4年次の卒論指導 、構想指導、論考、記述について指導を重ねて論理展開の整った指導を展開する。特に留年している学生に対して、教室主任、保健管理センターとも情報共有を進めながら指導にあたる。 （6）教員採用試験二次対策での小論文、面接、模擬授業等について指導を行う。	0.30	(1)(2)教職大学院の院生に対して科目履修、実習を通した研究課題の明確化及び課題解決に努めた。主担当する2年次の村吉は「授業づくりと指導法の高度化」以降、専門領域の学修を深めながら実践を重ね、12月の教職大学院協会研究集会で本学の代表として発表した。1年次の玉那覇は本学の学修、特に実習と課題研究を通して自らの実践を相対化して、研究課題を明確化して課題発見実習Ⅱ（後期）に臨む準備が整っている。 (3) 「社会科教育研究」では、j学生の授業構想力の育成に向けて、①授業分析、②授業構想演習、③見本授業を示し、授業構想を指導案として表せるようになった。 (4)「生活科教育研究」では、先行実践等を示すことで内容中心の教科との違いを意識させ、を生活科の本質についての理解を先行実践や学習指導要領から学び、授業構想につながる指導をした。また、授業構想を指導案として表せるようになった。 (5)学部4年次の卒論指導では、幼小接続問題、学級づくりにおける教師の指導性、沖縄県における総合的な学習の時間、及び教科等との関連、数認識に関わる算数科指導法について指導した。構想指導、論考、記述について形成的評価及び指導を重ねて論理展開の整った指導を進めた。 (6)教員採用試験二次対策での小論文、面接、模擬授業等については、7月下旬から8月9日まで学生が立てた計画に基づき、グループ毎（2名～14名程度）への延100名ほどの指導を行った。
研究	0.30	(1) 新たに特別支援学校教諭専修免許化の課程が加わった教職大学院の実習のあり方について、実践しながら研究し、実習の特徴を活かす実施方法を明らかにする。 (2) 特設道徳以前（1958年以前）の社会科と道徳教育との関連についての研究を論文化する。 (3)次期学習指導要領について研究し、学校でのカリキュラム・マネジメント及び社会に開かれた教育課程の編成に向けた理論的、実践的な方策を明らかにして、その成果を論文化したり、発表したりする。	0.20	(1) 新たに特別支援学校教諭専修免許化の課程が加わった教職大学院の実習のあり方については、本年度に入る前の調整及び計画が功を奏し、年度に入ってからの実施も支障なく展開できた。 (2) 特設道徳以前（1958年以前）の社会科と道徳教育との関連についての研究は。一次資料の確認を進めたに止まり、進んでいない。 (3)次期学習指導要領について研究し、学校でのカリキュラム・マネジメント及び社会に開かれた教育課程の編成に向けた理論的、実践的な方策を明らかにして、成果を「教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成に向けた取組―管理職等研修会と沖縄県宜野湾市立普天間第二小学校での取組を中心に―」として論文化した（印刷中）。また、この成果を日本教育方法学会第55回大会の自由研究で発表した。
社会貢献	0.20	(1) 琉球大学教職センターの「アドバイザリースタッフ派遣事業」において、要請された学校に赴いて協力して研究を深める。 (2)宜野湾市いじめ問題専門委員会委員長として「いじめ」の未然防止に努める。特に過去の「いじめ問題報告書」の分析を通して、いじめ事例の初動の重要性について確認できるように話題提供する。 (3)学部の戦略的経費を活用して沖縄県内各地で「先生応援セミナー教師塾」を開催する。(4)島尻地区管理職等研修会における「カリキュラム・マネジメント及び社会に開かれた教育課程」についての講話 ①「令和元年度　島尻地区校長研修会」（5月27日） ②「令和元年度　島尻地区教頭研修会」（6月28日） ③「令和元年度　島尻地区教務主任研修会」（7月8日） (5)九州中学校社会科教育研究大会（11月15日）の共同研究者として授業づくりに貢献する。 (6)教職大学院の実習に関連して、実習校でのニーズに対応した情報提供（校内研修への協力等）を進める。	0.40	(1) 琉球大学教職センターの「アドバイザリースタッフ派遣事業」を中心に、要請された学校及び教育機関に赴いて発表・講演・ワークショップを実施して協働して研究を深めた。20回（中城南小・慶留間小中・与勝中・前田小・沖縄ろう学校・島尻教育事務所・島尻教育研究所・座間味村合同研修会・普天間第二小・城前小・大岳小・長田小・カトリック小・伊江村合同研修会等）。 (2)宜野湾市いじめ問題専門委員会委員長として、8月と1月の委員会で「いじめ」の未然防止に努めた。特に過去の「いじめ問題報告書」の分析を通して、いじめ事例の初動の重要性について確認した。またこれとは別に、8月に実施した「宜野湾市生徒指導・教育相談担当者合同研修会」では生徒の問題行動にける教師の指導が重大事態つながる事例を取り上げて研修を実施した。 (3)学部の戦略的経費を活用した「先生応援セミナー教師塾」を鹿児島県から講師を招聘して「いじめのない学級は可能か」をテーマに講演と意見交換を行い、いじめ問題に対する見識を広げた。 (4)島尻地区管理職等研修会における「カリキュラム・マネジメント及び社会に開かれた教育課程」についての講話 ①「令和元年度　島尻地区校長研修会」（5月27日） ②「令和元年度　島尻地区教頭研修会」（6月28日） ③「令和元年度　島尻地区教務主任研修会」（7月8日） これらを予定通り実施して来年度の教育課程編成上の留意事項について確認した。 (5)九州中学校社会科教育研究大会（11月15日）の共同研究者として授業づくりに関わった。授業者に対して勤務校に赴き、実際に中学1年生に地理の授業を示して授業研究をすることで授業づくりについての取り組み方を示した。 (6)連携協力校での校内研修（中城南小学校の理論研究及び中城南小での中城村校種間授業研究会・普天間第二小学校でのカリキュラム・マネジメントの説明と演習）に加え、2年次現職院生の勤務校での校内研修に参加した（城前小学校、国語研究授業）。
管理運営	0.20	(1)連携推進会議及び連携協力校等連絡協議会の円滑な実施に向けて準備、運営に努力する。 (2)教職大学院全体の円滑な運営に尽力する。 (3)教職大学院の実習について関係諸機関と連携をとりながら円滑な運用に努める。	0.10	(1) 5月30日（木）第1回連携推進会議及び連携協力校等連絡協議会、10月24日（木）第2回連携協力校等連絡協議会、2月10日（月）に第2回連携推進会議及び第3回連携協力校等連絡協議会を実施。この間、連携推進会議及び連携協力校等連絡協議会の開催にあたっては、内容の検討及び必要な資料（様式）の作成を行い、正確な公文作成、会議の運営に努めた。	
	0.00		0.00		
計	1.00		1.00		
※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）			□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。		

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	藏滿逸司	所　属	教育学研究科　高度教職実践専攻（教職大学院）	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.50	(1)教職大学院の院生に、共通科目と選択科目を通して、教員に求められる「普遍的資質能力」と「これからの時代で特に求められる資質能力」が高まるよう指導する。 (2)小学校での勤務経験を、学問的に位置付けて院生に伝える。講話だけでなく、ビデオ・授業記録などを提示したり、模擬授業を行うなど伝え方を工夫する。 (3)実践に役立つ献や全国の教育研究者の研究動向についても紹介し、幅広い視野で最新の教育情報に院生が触れ刺激を受けることができるように心がける。	0.50	(1)教職大学院の院生に、共通科目と選択科目を通して、教員に求められる「普遍的資質能力」と「これからの時代で特に求められる資質能力」が高まるよう具体例を示しながら指導した。 (2)小学校での勤務経験を、ビデオ・授業記録などを提示したり、模擬授業を行い伝え、学問的背景についても紹介した。 (3)担当院生に課題に関する最新の研究動向について文献をもとに指導助言を行った。
研究	0.20	(1)教職大学院の授業のあり方について、実践を重ねながら常に振り返り改善していく。Webclassの活用研究を進める。 (2)道徳教育についてこれまでの実践を整理し、理論的な裏付けを行う。 (3)これまで作成してきた学習クイズを、現場で活用できる形に整理し出版する。 (4)小学校における読み聞かせの教育的価値と具体的方法について整理する。	0.20	(1)Webclassを主に担当する講義で積極的に活用した。 (2)道徳教育について多様な理論と実践についてまとめた。 (3)学習クイズについてまとめ黎明書房から『小学校 授業が盛り上がるほぼ毎日学習クイズBEST365』として発行した。 (4)学校図書の教科書『小学校算数』の編集委員として研究を行った。
社会貢献	0.20	(1)平成30年度スマートスクール・プラットフォーム実証事業「次世代学校ICT環境」の整備に向けた実証【宮古島市】 スーパーエクゼクティブアドバイザ (2)教育学部附属教育実践総合センターの「アドバイザリースタッフ派遣事業」に登録し、要請があれば模擬授業などを通して研究活動の成果を地域に還元する。 (3)教員免許講習で「IT教育」「協同学習」「世界自然遺産教育」を担当し，実践的な情報と技術をワークショップ形式で紹介する。 (4)「世界自然遺産教育」をテーマにした市民向けの公開講座を担当する。 (5)1999年から購読料無料で全国の教育関係者を対象に発行しているメールマガジン「小学校教師用メールマガジン」(登録読者総計3700人)の内容を充実させる。	0.20	(1)教育学部附属教育実践総合センターの「アドバイザリースタッフ派遣事業」に登録し、道徳、ICT、算数を中心に小中学校で講話を行った。 (2)教員免許講習で「IT教育」「学級づくり」「協同学習」「世界自然遺産教育」を担当し，実践的な情報と技術をワークショップ形式で紹介した。 (3)「世界自然遺産教育」をテーマにした市民向けの公開講座を担当した。 (4)1999年から購読料無料で全国の教育関係者を対象に発行しているメールマガジン「小学校教師用メールマガジン」(登録読者総計3700人)を継続して発行した。
管理運営	0.10	(1)教職大学院全体の円滑な運営に尽力する。 (2)教職大学院のフォローアップ委員会の一員として、ホームカミングデーの企画運営 を計画的に行う。	0.10	(1)教職大学院全体の円滑な運営に尽力した。 (2)教職大学院の広報担当者の一員として、オープンスクールやフェイスブック、ブログなどを通じて積極的に広報活動を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	村末　勇介	所　属	教育学研究科　高度教職実践専攻（教職大学院）	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	(1)教職大学院の院生に対しては、4期生年次指導担当として、それぞれの課題発見ならびに課題解決方法の具体的な把握がなされるよう、共通科目、選択科目を通して、理論を踏まえた実践的な指導を行い、日常的な関わりを持つとともに、支援に努める。 (2)学部学生に対しては、「特別活動論」の講義、卒論ゼミ指導を通して、学級づくりや教科教育実践、性教育実践、卒業研究等、そのニーズに応じて適切な助言、および計画的な共同研究ができるようにする。	0.40	(1)教職大学院4期生年次指導担当として、日常的な関わりの元に学生生活を支援することができた。主担当である2人の院生とは、課外活動として定期的に学習の時間をもつと共に、全体的には、実習校とのトラブルや指導体制に関わる院生の悩みに対応することができた。 (2)学部学生に対しては、「特別活動論」の授業、卒論ゼミを通して、継続して指導を行った。5人の学部生の卒業論文指導、教育実習での訪問指導についても計画的に進めることができた。
研究	0.30	(1)教職大学院におけるワークショップ方式の授業展開等について研究を進め、実務家教員としての経験と立場を活かした指導の工夫・改善に努める。 (2)性教育やがん教育等を通しての自尊感情を育む具体的な実践方法について、教育現場・医療現場・保護者との協同研究を進める。	0.30	(1)生活指導や学級経営関係の授業では、ゲスト講師を招いたり、現場に出向いての授業の参観等を取り入れたりして、理論と実践の往還を指向した授業改善を進めることができた。 (2)附属小学校の健康教育の共同研究者として、継続的に授業研究に取り組むと共に、大学院修了生である中学校教員や在学生である高校教員との実践研究について、それぞれ研究紀要にまとめることができた。また、性教育・保健実践を中心に雑誌論文3本、共著書2冊を出版した。
社会貢献	0.10	(1)「アドバイザリースタッフ事業」に参加し、教育現場との連携による実践・理論研究に努める。 (2)民間団体である「がん教育」や「性教育」に関する実践・研究グループ、カンボジア教育支援グループとの共同研究を通して、地域に根差した研究の推進と、情報の提供に努める。	0.20	(1)アドバイザリースタッフ派遣事業15回(飛び込み授業・校内研修会共同研究)、その他現場での授業研究会2回、性教育セミナー(実行委員長)等を担当し、教育現場との連携による実践・理論研究に勤めた。 (2)特別活動論の授業では、沖縄県がん患者会や沖縄レインボープロジェクト(LGBT)、県助産師会からのゲスト講師を招き地域に根ざした教育実践を展開すると共に、課外活動として学部学生40名を組織して、カンボジア・ラオスへの教育支援活動に取り組むことができた。
管理運営	0.20	(14期生年次指導担当として、より計画的な職務の遂行に努め、円滑な運営に資することができるようにする。 (2)ホームページ作成やオープンキャンパスの運営を中心に、教職大学院の広報を計画的に進めるとともに、専攻紀要の発刊に向けたとり組みを計画的に進める。	0.10	(1)4期生年次指導担当として、定期的に悩みを聞く場を設け、学生生活の円滑な展開に資するよう取り組んだ。 (2)ホームページの定期的な更新、オープンキャンパスの企画・運営については、計画通り実施することができた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	比嘉　俊	所　属	教育学研究科　高度教職実践専攻（教職大学院）	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	・新聞から教育に関する時事問題を授業で扱う（毎時間） ・採用試験に向けてのアドバイスまたは補講（2回／月） ・教育現場と連携し、学生の視察校または研究実践校を紹介する（2校） ・学生同士の交流を図り、科目目標に近づく知を練り上げる授業の展開（毎時間） ・院生の教科研究会参加への案内 ・採用試験2次対策（模擬授業・小論文，50時間） ・実習指導	0.30	・学部の授業において，新聞からの時事ネタを毎時間取り入れることは出来なかった。 ・教員採用試験に向けての勉強会を平均月3回実施した。 ・学卒院生への実践交渉会は2名の院生にしか出来なかった。 ・大学院の授業では，院生同士のディスカッションを軸として内容を深めた。 ・採用試験2次対策において，院生・学部生へ模擬授業を40時間程度行った。 ・実習においては，教授法の指導のみならず，師範授業を行った。
研究	0.30	・科学研究費助成事業（研究代表者：比嘉俊）の遂行 ・学会誌への投稿 ・学会発表 ・日本教材学会での課題研究プロジェクトへの参加と発表	0.30	・科学研究費助成事業（研究代表者：比嘉俊）の遂行 ・査読誌で論文2j本掲載 ・学会発表3回 ・日本教材学会での研究プロジェクトでの発表
社会貢献	0.10	・教科教育サークルとメーリングリストの運営 ・学校現場での講師・指導助言・師範授業（5回） ・附属中学校校内研への参加（5回） ・民間教育研究会の顧問 ・沖縄生物学会の評議員 ・理科自由研究コンクールの審査委員または審査委員長	0.10	・教科教育サークルとメーリングリストの運営 ・学校現場での講師・指導助言・師範授業（9回） ・附属中学校校内研への参加（2回） ・民間教育研究会の顧問 ・沖縄生物学会の評議員
管理運営	0.30	・教職大学院年報の発刊 ・教職大学院の実習の取りまとめ ・2年次へのケア（課題研究　など）	0.30	・教職大学院年報の発刊 ・実習の計画とそのまとめ ・2年次担当としての成果発表会の計画 ・全学入試点検委員 ・学部の将来構想WGのメンバー
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。